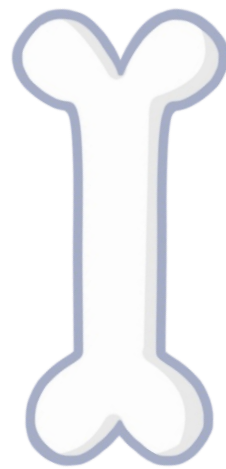


骨粗鬆症治療薬

～ビスホスホネート製剤について～

高齢化社会にある日本では、骨粗鬆症とそれに起因する脊椎圧迫骨折や大腿骨頸部骨折が多いです。骨粗鬆症に関連する因子として高齢者や閉経後が有名ですが、**ステロイド使用**や**関節リウマチ**そのものも骨粗鬆症に繋がります。骨粗鬆症治療薬は複数ありますが、最もよく使用される薬剤の1つがビスホスホネート製剤と言われるものです。



主なビスホスホネート製剤

薬剤名	主な商品名	使用間隔	特徴
アレンドロン酸	ボナロン®	週1回, 月1回 (点滴のみ)	ゼリー製剤あり 点滴製剤あり
リセドロン酸	ベネット® アクトネル®	週1回, 月1回	半減期が短め
ミノドロン酸	ボノテオ® リカルボン®	月1回	—
イバンドロン酸	ボンビバ®	月1回	静注製剤あり
ゾレドロン酸	リクラスト®	年1回	点滴製剤 年1回の投与でよい

注意点

① 飲み方に注意が必要です

- ・ **起床時の空腹時に飲みましょう**。胃のなかに飲食物がある状態だと十分吸収されないため、内服後30分は水以外は口にしないようにしてください。
- ・ **内服後30分は横にならないようにしてください**。食道への刺激が強い薬なので、しっかりと胃に留まる必要があります。

② 口腔内衛生環境をしっかりと保つようにしましょう

- ・ 非常に稀ですが、薬剤関連顎骨壊死という副作用の報告があります。これは**口腔内衛生環境を保つことが予防につながります**。
- ・ ビスホスホネート製剤**開始前には必ず歯科を受診**して、治療が必要な歯があれば治療を優先してください。
- ・ 内服中に抜歯などの歯科治療が必要になった場合は、**歯科医師と主治医に相談してください**。近年は、骨粗鬆症に対する使用の場合、抜歯前のビスホスホネート製剤の休薬は推奨されない方向になってきています。

参考文献：

J Oral Maxillofac Sug 2022;80:920-943

薬剤関連顎骨壊死の病態と管理：顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2023 (パブリックコメント用)

文責：志水 隼人